

事務 事業名	コード1	0157	医療福祉・食・交流の郷づくり事業	課	企画政策課					
	コード2	②	花育・花産地PR推進事業		所属班	政策推進班				
			☒ 主要事業	電話番号	62-5382	内線	272			
政策 体系	基本方針	5	活力と躍動感に満ちたまちづくり	予算	会計			款	項	目
	施策	1	農業の振興	科目	一般会計			02	01	07
	施策の展開	5	交流事業の促進	根拠 法令	旭市補助金等交付規則					
	基本事業	288	都市との交流促進							

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 19 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全休像を記述⇒	・旭市総合計画リーディングプランのひとつである「交流の郷」を実現させるためには、市民の力が重要であり、リーダーや担い手、後継者が支えていくことが求められています。本事業は千葉県第2位の生産額を誇る旭市の多種多様な「花」に着目し、このような可能性を秘めた花を使って都市住民との交流を広げることで、旭市の認知度を上げるとともに「花のまち旭市」としてのイメージアップを図る。また、花産業の活性化はもちろん、継続的な来訪及び市の商品の売り上げ向上による経済効果を狙う。 ・その他、地元生産者が都市部の消費者と交流を図ることで、消費者の求めるニーズの把握、新たな顧客の確保につなげる。 ・事業実施団体は「旭市花卉生産者協議会」、役員13人、花卉農家126戸 【業務の流れ】 (事業関係)・花の交流イベントの企画～開催、商談会やその他イベントでの花のPR交流活動、オフィス緑化運動、花育活動の推進 (補助金関係)・市補助金申請(4月)→各種イベントや花育活動等の推進→イベント参加者から料金の徴収→市補助金実績報告(3月)

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等) H23実績		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
事業費内訳	・需用費 1,412,220円(各種イベント時消耗品、花代、賄材料費、パンフレット印刷費)	千円						
	・賃借料 140,520円(イベント時バス借上等)	千円						
	・報償費及び役務費 125,415円(各種講師料、参加者保険料)	千円						
	●合計 1,678,155円	千円						
	② 延べ業務時間の内訳 H23実績	千円						
人件費	・交流体験事業 10人×8h×1日=80h、・その他イベント 2人×8h×6日=96h	人						
	・花育活動 2人×4h×5日=40h、オフィス緑化 1人×4h×3日=12h	時間						
	・担当事務・準備 2人×8h×15日=240h、役員会出席 2人×2h×10日=40h	千円						
	●合計 508h	千円						
	トータルコスト(A)+(B)	千円						

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) ・協議会主催交流イベントの開催 ・各種イベントや商談会への参加 ・オフィス緑化活動 ・花育活動、協議会の運営 24年度計画(24年度に計画している主な活動) 23年度と同様とするが、その他先進事業の調査研究や旭市の魅力発信につながるイベントを行う	ア イベントの開催及び参加回数	回	4	3	5	6		
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	イ 商談会(販路拡大)への参加回数	回	1	2	3	4		
	・東京都民、千葉県民 ・協議会へ参加する生産者 ・旭市民	ウ オフィス緑化、花育活動実施回数	回	1	2	2	2		
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	・旭市で生産される様々な花を知り、購入につながる。 ・生産者が営業・販路を拡大するきっかけになる(能力向上) ・花の魅力と活用方法が広がる	ア 協議会で参加したイベント売上額 *ただし、交流事業は数字に表れにくいその他の部分が多い	千円	-	100	394	500		
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	イ 生産者が協議会活動を通して「営業能力を高められた」と実感した。	人	8	20	35	40		
	・交流事業参加をきっかけに、旭の豊富な資源と魅力を知り、自ら旭市へ来訪するリピーターとなり、観光・消費など大きな広がりにつながる。 ・市民が花と親しみ・愛するようになる。 ・花の生産量・販売額が拡大する。	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
上位目的		ア 交流事業参加者がまた旭市に訪れたと思ったか。(アンケート及びイベント参加者への聞き取り)	人	220	180	330	450		
		イ 市民へ旭の花(事業の理解度)が広められたイベント数	回	2	4	5	6		

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
千葉県第2位の生産量を誇る旭市の花は、切花・鉢花・観葉植物・洋ラン等、多種多様であり様々な可能性を秘めている。この花に特化した交流を展開し、「花のまち旭市」として広くPRを行う。	近年の不況及び輸入品の増加等により、旭市のみならず全国の花の生産量が減少傾向になっている。なお、本事業の参加希望者は例年募集人数を超えており、旭市の花の豊富さをPRし、認知度は広まってきているものの、旭市花産業全体の活性化まではたどり着いてはいない。	開始当初は、主催側の生産者の協力が少ない傾向にあったが、平成22年度からは「旭市花卉生産者協議会」を設置し、これまでバラバラに活動していた生産者が団結し、この不況(花は嗜好品)を乗り切ろうという機運になっている。今後は、花の交流をきっかけに観光・商業等への波及が重要となる。

事務事業名	医療福祉・食・交流の郷づくり事業 花育・花産地PR推進事業	課名	企画政策課	班名	政策推進班
-------	----------------------------------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつか？意図することが上位目的に結びついているか？	交流人口が増加することにより、花産業のみならず観光業の活性化や消費の拡大に伴い、市民の暮らしの向上につながるものと認識している。
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	都市を基点として情報を発信し始めており、対象の妥当性を図っている。また、市内の花生産者が団結し、都市住民へ向けた交流の実施を図っており、今後は更なる熟成を重ねることで妥当性が図られる。
	③ 行政関与の妥当性	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	事業のやり方次第では、民間(生産者)による完全実施も可能だが、実際は市が主となり募集を展開していることが参加者の申込につながっている部分が多い。今後は徐々に民間にシフトする方策を探ってきたい。
	④ 成果の現状水準	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	近隣市では実施例はなく(南房総地区はあり)、体験メニューやイベントもバリエーション豊富だが、今後は例年同じメニューにならないようにしていきたい。
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？	景気の低迷により花産業も悪化傾向にあるため、今後は花を使った様々な活用方法の発案、やり方の工夫、受け入れ側の体験メニュー等の適宜更新を図ることで成果は向上する。
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(集客力の意ある市のイベント) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	他の交流事業にととまらず、市の集客イベント等との連携、メディアや大手旅行会社との連携を広めることにより、さらなる事業の活性化が図れる。
	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	魅力が落ちない範囲でのイベントメニューやおもてなし内容の見直しによっては経費削減の余地がある。
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	参加対象者との連絡調整・他のイベントへの連携交渉など、細部では行政の比重が多いため、これらを徐々に民間へシフトできれば人件費の削減は可能。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	旭市の花農家の団結により、多種多様な市の花卉をPRしながら都市との交流活動を実施しており、現在もその趣旨に沿い運営をしている。今後は旭の花産業の活性化から始まり、市全体の観光・産業・交流へ広がる発展を目指していきたい。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	景気の低迷はもちろん海外からの輸入も含め、今後も国内花産業は厳しい状況が続くと予想されるが、「花産業活性化による旭市の魅力発信」の場として行政からもバックアップして行きたい。事業としては旭市の花卉の特色を活かした都市交流として軌道に乗りつつあるが、見直し余地を改善しながらも、常に新しいメニューを考案していきたい。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

<